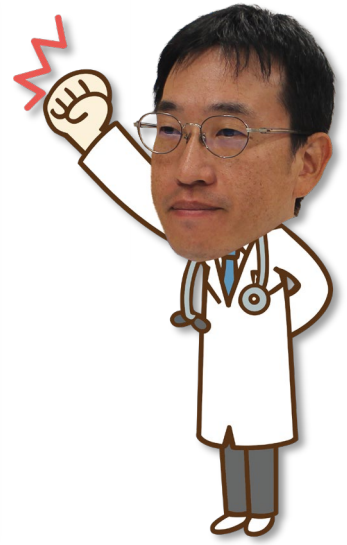
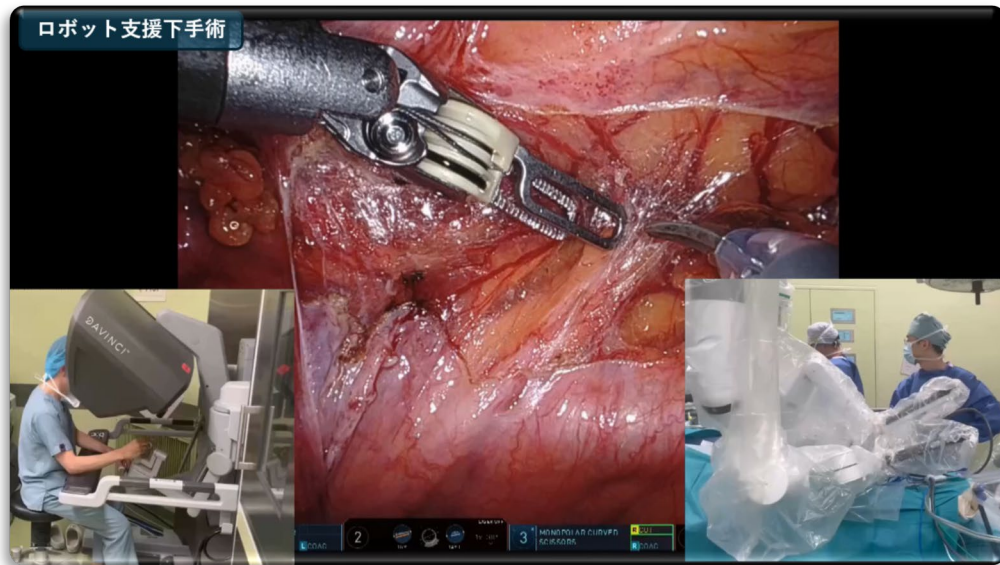


早期発見で治そう !! 大腸癌



大腸癌とは、大腸（結腸や直腸）の内側の粘膜から発生するがんです。日本でも患者数が増えているがんの一つで、**早期に見つければ治る可能性が高い**病気です。

原因としては、食生活や生活習慣が大きく関係しています。脂肪の多い食事や野菜不足、運動不足、肥満、喫煙、過度の飲酒などがリスクを高めるとされています。また、遺伝的な体質や、大腸ポリープ（腺腫）ががんへ進行することも知られています。

初期の大腸癌はほとんど症状がありません。しかし進行すると、****血便（便に血が混じる）****が代表的な症状として現れます。そのほか、便秘と下痢を繰り返す、便が細くなる、残便感（出しきれていない感じ）、腹痛、体重減少、貧血などがみられることがあります。右側の大腸にできるがんでは出血に気づきにくく、貧血で見つかることもあります。

診断には、まず便潜血検査（便に目に見えない血が混じっていないかを調べる検査）が広く行われています。異常があった場合や症状がある場合には、大腸カメラ（内視鏡検査）を行い、直接腸の中を観察します。疑わしい部分があれば組織を採取し、顕微鏡で調べてがんかどうかを確定します。さらに、**CT検査**などでがんの広がりや転移の有無を評価します。

治療は、がんの進行度によって異なります。早期のがんであれば、内視鏡を使ってがんの部分だけを切除する治療が可能です。進行している場合は、手術でがんのある大腸を切除し、周囲のリンパ節も一緒に取り除きます。手術後には再発予防のために抗がん剤治療（化学療法）を行うことがあります。さらに進行した場合には、抗がん剤や分子標的薬、免疫療法を組み合わせた治療が行われます。

予防と早期発見のためには、定期的な検診が非常に重要です。便潜血検査は手軽に受けられるため、毎年受けることが勧められています。また、バランスの良い食事（野菜や食物繊維をしっかりとる）、適度な運動、禁煙、節度ある飲酒もリスクを下げることに繋がります。